

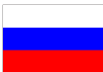
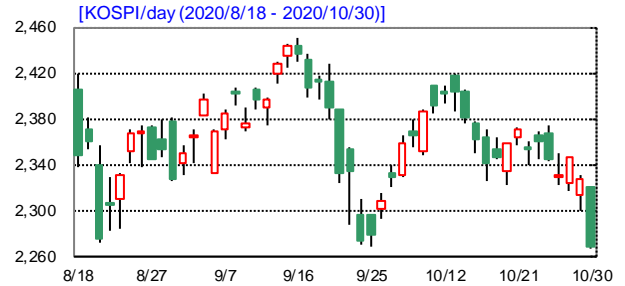


【韓国】 総合指数は週間で 4.0%安と反落、今週は米大統領選挙に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 4.0%安と反落。国内外で新型コロナウイルスの感染が再拡大していることを受け、世界経済の先行きに対する不透明感が強まったほか、米大統領選挙を前に様子見ムードも広がり、総じて軟調に推移した。10月27日に発表された7-9月期のGDPは前期比1.9%増とプラス成長に転じたが、4-6月期が22年ぶりの低水準だった反動という側面が強く、相場への影響は限られた。個別では、サムスン電子の李健熙会長が25日に死去。相続税の支払いに備え、関連社が増配を行う可能性などが浮上したが、サムスン電子の株価は27日から4日続落した。今週は、米大統領選挙まではリスクを取りにくく、様子見ムードの強い展開か。国内外の感染状況も懸念材料。経済指標では3日に10月のCPIが発表される予定。

▼指数チャート

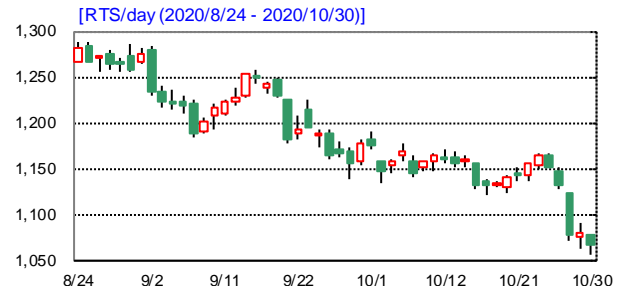


【ロシア】 RTS 指数は 8.4%安と大幅反落 今週は米大統領選をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 8.4%安と大幅反落。新型コロナ感染再拡大による欧米株の下落に加え、原油安、ルーブル安が重しとなった。新型コロナの感染が再拡大する中、米追加経済対策の遅れなどが嫌気されて欧米株が下落し、ロシア株も週明けから売りが優勢の展開。欧米株が下げ幅を広げた28日はRTS指数も前日比4.7%安と大幅に3日続落。原油安に加え、ドル高・ルーブル安が進んだこともドル建てで取引される指数を押し下げた。指数は4月22日以来の安値となる1066.60ドルで週の取引を終えた。個別ではノバテックが10.1%安、ロスネフチが7.9%安、ガスプロムが6.5%安、ルクオイルが6.4%安とエネルギー株が売られた。ズベルバンク・オブ・ロシアは6.3%安。今週は原油や為替相場、米大統領選をにらんだ展開か。

▼指数チャート



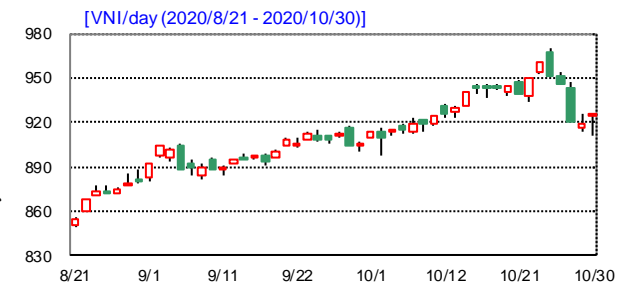
【ベトナム】 ベトナム指数は 3.7%安と大幅に 7 週ぶり反落、今週はコロナ拡大を警戒か

戒か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 3.7%安と大幅に 7 週ぶりに反落。新型コロナ感染再拡大で欧米株が大きく下落し、ベトナム株にも利益確定売りが強まった。指数は前週の好調な流れを引き継ぎ、週明け26日は場中に970.15ポイントと1月末以来の戻り高値を付けたが、その後は利益確定売りが優勢。コロナ感染再拡大で欧米株が下落したこともセンチメントの悪化につながり、指数は週明けから29日まで4日続落。30日は10月5日以来となる911.20ポイントまで下落後、前日比0.7%高と5日ぶりに反発して終えた。個別ではテクコムバンクが11.0%安とベトナム投資開発銀行が10.0%安、ベトインバンクが8.8%安、ベトコムバンクが5.1%安と金融株が軒並み売られた。今週は欧米でのコロナ感染再拡大や米大統領選に左右される展開か。

▼指数チャート



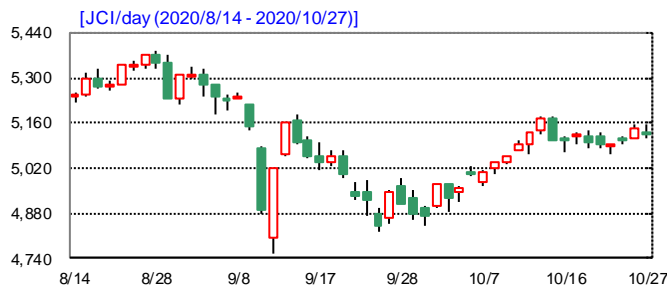


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%高、今週は 5 日に 7-9 月期の GDP 発表

ジャカルタ総合指数は 2 日間の取引で 0.3%高と 4 週続伸。10 月月間では 5.3%高。先週は国内の経済イベントが少ない中、終始 5100 ポイント台での値動きだった。週初の 26 日は、金融株が買われて続伸。一方、27 日は前日の NY ダウが米国での新型コロナウイルスの新規感染者数増加を受けて大幅続落した流れを引き継ぎ、反落して連休前の取引を終えた。今週は 2 日の 10 月の CPI に続き、5 日には 7-9 月期の GDP が発表される予定。4-6 月期に前年の水準を下回った GDP がプラスに回復すれば、株式相場の追い風になりそうだ。外部要因では米大統領選の結果や、中国の 10 月の財新製造業 PMI が焦点。

▼指数チャート

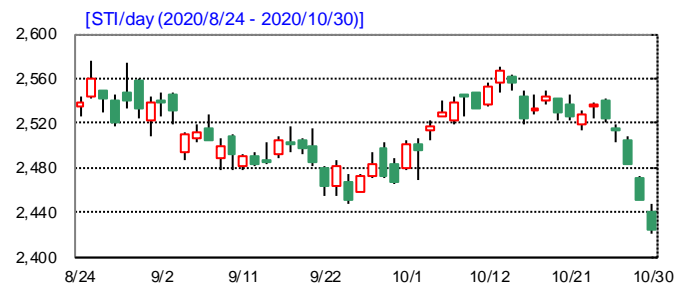


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 4.5%安、外部要因で週初から 5 日続落

スレーツタイムズ指数は週間で 4.5%安と 5 週ぶりに反落。10 月月間では 1.7%安。先週は外部要因が指数を押し下げ、週初から 5 日続落と不調だった。26 日は 9 月の鉱工業生産が前年同月比 24.2%増と市場予想を大幅に上回ったものの、欧米での新型コロナウイルスの感染再拡大などが嫌気され、指数は 3 営業日ぶりに反落。28 日は主要国の株安に連動して前日比 1.2%下落した。週後半もフランスやドイツでの都市封鎖の再導入決定や米大統領選を翌週に控えた様子見で売られ、30 日には終値で 4 月 3 日以来の安値を更新している。今週は 3 日に 10 月の製造業 PMI、5 日に 9 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

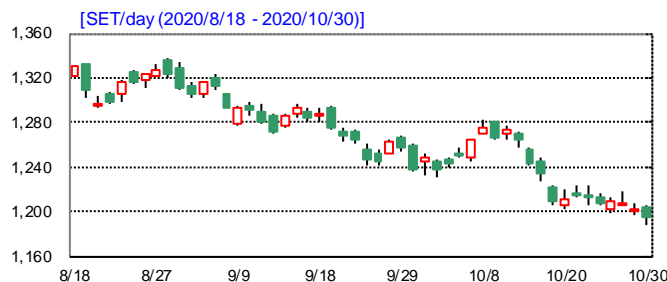


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.5%安、週末に 7 カ月ぶりの 1200 ポイント割れ

SET 指数は週間で 1.5%安と 3 週続落。10 月月間では 3.4%安。先週は買い材料に乏しく、軟調な値動きが続いた。週初の 26 日は、前日にバンコクで大学生が主導する反政府デモが実施されたことが嫌気され、指数は続落。27 日は小幅に反発したが、28 日は 9 月の鉱工業生産が前年同月比 2.8%減と市場予想の 4.7%減から上振れたものの買い材料視されず、売り優勢の展開となった。29 日は前日の欧米株が新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて急落した影響で続落。30 日には終値で約 7 カ月ぶりに 1200 ポイントを割り込んで引けた。今週は 5 日に 10 月の CPI が発表される予定で、前年同月の水準を上回るかが焦点。

▼指数チャート

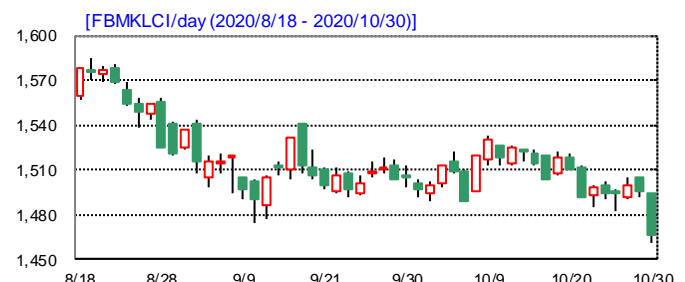


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.9%安、今週は 6 日に 21 年度政府予算案発表

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 1.9%安と 3 週続落。10 月月間では 2.5%安。先週は週末の反落が痛手だった。週初の 26 日は、政局の混乱が続く中でムヒディン首相が要請していた新型コロナウイルス対策としての非常事態宣言発令をアブドラ国王が却下したことが下支え材料となり、指数は前週末からほぼ横ばい。27-28 日は 1500 ポイントを挟んでもみ合ったが、祝日を挟んだ 30 日は、世界経済の低迷に対する懸念が広がった影響で、終値で前日比 1.9%安と続落して取引を終えた。今週は 3 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、6 日には 21 年度政府予算案が発表される予定。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。